

学習内容報告書 フォーマット

学校名	階上町立小舟渡小学校
授業者	教諭 木村美耶子（海洋教育及び特別活動担当）

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ふるさとの海を守る

1-2. 学年

全校

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

1～2年 生活科 3～6年生 総合的な学習の時間 全校 裁量の時間

1-4. 単元の概要

ふるさとの海のおよさや環境を知り、ごみ拾い活動につなげ、今後も海を守る（ごみを捨てない、ごみを拾う）心情をもたせる。

- ①ふるさとの海のおよさを考えさせる。
- ②海のおよ現状を調べる。
- ③海を守る（ごみ拾い）計画を立て、実践し、記録する。
- ④活動を振り返る。
- ⑤ふるさとの海からさらに広い海へと視野を広める。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 1 校訓「ふるさとの小舟渡を愛し、志をいただき、夢を追う人」の具現化（心情を高める）
- 2 学校目標「伝える力の向上」の達成（行動で伝える）
- 3 SDG s の推進（継続して行う）

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ①海のおよよさに気付き、海を愛する心情
- ②思ったこと、考えたことを行動にうつす実践力
- ③継続力

1-7. 単元の展開（全23時間）

時数	学習活動・主な内容	○・教師の指導 / ☆主な評価 ◇外部連携 / □使用教材等
1	導入（1） ふるさとの海の実感を。 小舟渡の海がなぜ「よい」のか考える。	○これまでの海での活動をもとに考えさせる。 ☆自分の体験をもとに考えることができたので、実感をともなった話し合いとなった。
2	導入（2） ①教師が拾ってきたゴミを見ながら、考えを交流する。 ②海の汚れ、ごみ問題に気付く。 「プラスチック・スープの地球」 著：ミヒル・ロスカム・アビング ポプラ社 を見て、感じたことを交流する。	○プラスチックのゴミが多いこと、外国のゴミもあることなどから、考えを広めさせる。 ・なぜ、プラスチックごみが多いのか。 ・なぜ、外国のゴミがあるのか。 ○生き物がかわいそう、だけではなく、海で働く人の立場や街や山とのつながりも考えさせる。 ☆自分の問題としてとらえていた。
4	実践（1） ごみ拾い計画を立てる。 ・月に1回、業間タイムを使う。 ・低・中・高学年で範囲を分担する。 ・プラスチック、発泡スチロール、燃やせないごみに限る。 ・集計、記録、後片付けは高学年が行う。 ・年に1回、大々的な清掃を行う。	○安全第一で、できる範囲で行わせる。 ○学校いちご煮まつりの前に、毎年行っている小舟渡海岸大清掃（県境～漁港まで）を行った。 ☆協力し合いながら一生懸命取り組み、毎回しっかりと取り組んでいた。 ◇漁業部会
6	実践（2） 山海学習会 ①ふるさとの山（階上岳）のことを学ぶ。 ②ふるさとの海（小舟渡海岸）のことを学ぶ。 ③山と海の間について学ぶ。	○外部講師に依頼 ・町産業振興課 グループリーダー 森 淳 氏 ・町社会教育課 サブリーダー 伊藤 航 氏 ☆様々な調査・研究をしている二人だったので、貴重な学習ができた。 ◇町産業振興課・町社会教育課
2	振り返り 実践について、今後のことについて話し合う。 作文にまとめる。	○ごみ問題に関しては、永遠の課題であり、目を背けてはいけない問題であることをとらえさせる。 ○これからも、ふるさとの海を守っていこうとする心情を高めさせる。 ○自分がやれそうなことは何か、考えさせる。 ☆ねらいは80%達成できた。
2	まとめ（広げる・深める） 八戸市水産科学館にいて、実験したりお話を聞いたりして、海に対する思いを強くする。	○外部講師に依頼 ・八戸市水産科学館マリエント（実験・観察） ・海洋開発機構むつ研究所（講演） ☆興味・関心をもって取り組み、それぞれの海に対する思いを広げたり深めたりした。 ◇マリエント（若松 氏）・むつ研究所（長根 氏）

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

ふるさとの海を守ろう（ゴミ問題）とする意欲を高める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと小舟渡の海にはすてきなところがたくさんあった。 <p>2 教師が拾ってきたゴミを見ながら、考えを交流する。（今朝、10分ぐらいで拾ってきたゴミ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルが多い。 ・網の破片とか、発泡スチロールも多い。 ・英語で書いてあるゴミもある。 ・どうしてかな（学習問題づくり） <p>3 プラスチックのゴミが多いのはなぜか、どうして外国のゴミもあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便利さ…溶けない、腐らない、長持ちする。それが、逆にいつまでも残り、ゴミが増え続ける。 ・海がつながっている。 ・船の人が捨てているかも。 <p>4 「プラスチック・スープの地球」 著：ミヒル・ロスカム・アビング ポプラ社を見て、感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間が捨てたゴミのせいで、生き物が悲しい思いをし、環境が破壊されている。 <p>5 自分たちでやれることはないか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを捨てない。 ・ゴミ拾いをしよう。・・・月1回しよう。 ・呼びかけよう。 <p>※ゴミ拾い活動ができるように、具体的に計画を作り上げる。 ※振り返り</p>	<p>朝、実際に浜から拾ってきたものを見せる。</p> <p>地球儀や世界地図、航海中の船の写真や漁業の様子写真などを準備しておく。</p> <p>衝撃的な写真もあるので、見せるときは注意する。</p> <p>（評）自分たちの海を守る、というスタンスで考えているか。 【発表内容】</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ・学習前は、休日の次の日など、校庭や隣接する芝生（海岸）に、お菓子のからなどが捨てられてあったが、全くなかった。
 - ・寒くなっても、少々雨が降っていても、子供たちから「ゴミ拾いをする」と意欲的に取り組む声が聞こえた。
- これらのことやまとめの作文内容から考えると、ねらい達成に即した単元構成で、十分ねらいを達成していると思われる。

4. 今後の課題

- ・海に対する心や行動をいかに持続させるか。
- ・学校が閉校となるので、来年の活動につなげられない。
- ・「呼びかける」という点ができなかった。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

「ゴミについて調べたことを」



「月 1 回ゴミ拾い活動」



山海学習会「山…巨木」



山海学習会「海…津波記念碑」



「ゴミ拾い」(集計)



「ゴミ拾い」(記録)

